

薬だつ知識

59

腎臓が重要な臓器であることはよくご存じかと思えます。今回は腎臓と薬の関わりについて紹介します。

腎臓は体の老廃物を尿として排出したり、体内の水分量を調整したりするなど多くの役割を持っています。一方、薬は腎臓から排せつされて体から消失するものと、肝臓で代謝されて無毒化されるものの二つに大きく分けられます。

薬の量は排せつ機能などが正常な人を基準として設定されているため、腎臓の機能が落ちると、腎臓から排せつされるタイプの薬は必要以上に蓄積され副作用が生じることがあります。弱

腎機能低下の副作用も

腎臓と薬

お薬手帳に腎機能に関する記載があれば、患者に合わせた適正な量の薬を考えることができる



った腎臓をさらに弱めてしまうことがあります。

腎機能が低下しているかは検査値で判断しますが、複数の医療機関や異なる

る診療科を受診する場合、腎臓の状態を把握できないまま薬が使われてしまうことがあります。

全国には慢性腎臓病（CKD）で腎機能が低下する患者をお薬手帳で把握している薬局、地域があります。お薬手帳に腎機能が分かる数値が記載されれば、薬を処方する医師や薬を渡す薬剤師がチェックしやすく、患者に合わせた適正な量の薬を考えたり、副作用回避に気付く機会が多くなります。地域によって違いはありますが、CKDシールをお薬手帳に貼ったり、腎臓の働きを示す数値の「eGFR」をお薬手帳に記載したりしています。

全ての血液検査で腎機能の検査値を測定しているわけではありませんが、腎機能の把握で薬の安全性を高めることができる場合があります。検査結果を受け取ったときは、お薬手帳とともにかかりつけの薬局や薬剤師に伝えていただければと思います。

（鹿児島県薬剤師会理事・山下弘志）

令和4年9月7日（水）

59. 腎臓と薬